

科目名	日本語教育法2			ナンバリング	JPN161	授業形態	講義
対象学年	3	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	玉懸元	担当教員					

授業の概要	この授業では、実際に日本語教室の教壇に立つための練習として、模擬授業を行う。授業を行うには事前に教案を作成する必要がある。したがって、教案の作成から授業の実践までを練習することがこの授業の第一の目標である。 ところで、日本語教室の現場では学習者からさまざまな質問が飛び出す。その質問に対応するためには、日本語の仕組みについて理解を深めておかなければならない。そこで、この授業は、日本語の仕組み―特に問題になることが多い発音、アクセント、語彙、文法の仕組み―について学ぶことを第二の目標とする。 (※)日本語教員を目指す人はもちろん、「効率的な外国語の学び方」「増え続ける在留外国人」「今後の日本社会における外国人とのコミュニケーション」といったトピックに関心ある人の受講も期待している。						
到達目標	(1) 日本語教室における授業の進め方について説明することができる。 (2) 日本語教室で授業を進めるための教案を自身で作成することができる。 (3) (2)の教案に基づいて授業を実践することができる。 (4) 日本語の仕組みのうち多くの日本語学習者が疑問を持つ点について、学習者に分かりやすく説明することができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	・「日本語教育文法」「日本語学習アドバイジング」「日本語教育法1」を履修してあることが望ましい。 ・授業時間中に受講生同士で議論する時間を設ける。積極的に意見を交わしてもらいたい。 ・授業時間中には、ここに示した参考書以外にも、授業内容の理解や発展的考察に役立つ文献等を多数紹介する。受講者それぞれ、自学に活用してほしい。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
(1) 授業で課されるすべての課題に真摯に取り組み、提出すべきものを提出している。	(1) 毎回の授業において発言の回数等から意欲・関心が認められ、すべての課題に真摯に取り組み、提出すべきものを提出している。 (2) 日本語教室における授業の進め方について説明することができる。 (3) 日本語教室で授業を進めるための教案を自身で作成することができる。 (4) (3)の教案に基づいて授業を実践することができる。 (5) 日本語の仕組みのうち多くの日本語学習者が疑問を持つ点について、学習者に分かりやすく説明することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○			○		60%
宿題・授業外レポート	○	○			○		20%
授業態度・授業への参加		○	○	○	○		20%

課題、評価のフィードバック	原則として毎時間、授業の終わりに、当日の授業内容に関連する課題を提出してもらう。授業後、提出された課題から、クラス全体で共有しておくことが有益と考えられるものを選出する。翌週(原則)の授業で、選出しておいた課題を適宜プロジェクター等も活用しながらクラス全体に紹介し、教員のコメントを加える。以上をもって課題に対するフィードバックとする。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	ガイダンス	この授業全体に関するガイダンスを行う	
	第2回	日本語教室の実際(1)	ビデオによる授業参観を行う	
	第3回	日本語教室の実際(2)	教員による授業の実演を行う	
	第4回	模擬授業(1-1)	教案の作成を行う	
	第5回	模擬授業(1-2)	模擬授業を行う	
	第6回	模擬授業(2-1)	教案の作成を行う	
	第7回	模擬授業(2-2)	引き続き、教案の作成を行う	
	第8回	模擬授業(2-3)	模擬授業を行う	
	第9回	模擬授業(3-1)	教案の作成を行う	
	第10回	模擬授業(3-2)	引き続き、教案の作成を行う	
	第11回	模擬授業(3-3)	模擬授業を行う	
	第12回	日本語の仕組み(1)	日本語の発音、アクセントについて	
	第13回	日本語の仕組み(2)	日本語の語彙について	
	第14回	日本語の仕組み(3)	日本語の文法について	
	第15回	まとめと試験	第1回～第14回の授業を振り返り、この授業で学んだことをまとめる。また、その理解度を問うための試験を行う。	
	試験	定期試験は行わない。		
授業の進め方		原則として講義形式。文献講読やディスカッションも行う。適宜、授業内で小テスト、授業外で宿題を課す。		
授業外学習の指示		参考書を活用しながら、各回の授業内容について予習・復習を行うこと。 （授業外学習時間： 毎週 180 分）		

教科書	適宜資料を配付する。
参考書	三牧陽子(1996)『日本語教授法を理解する本 実践編』バベルプレス その他、授業中に指示する。
参考URLなど	適宜授業中に指示する。
その他	